



つなく むすぶ
ひろげる



私たちの めざすもの

法人理念

つなぐ・むすぶ・ひろげる
 ~私たちのめざすもの~

わたしたちは、「天・地・人」の3つの恵みを糧に、すべての人の人権を守り、誰もが自立し、尊厳を持った暮らしのできる、共に生きる社会の実現を目指します。

1. ひとりにしない、ひとりにならない、心豊かな地域社会の実現
1. 地域で暮らすことを基本とした本人主体の支援
1. 地域に根ざした、信頼される法人

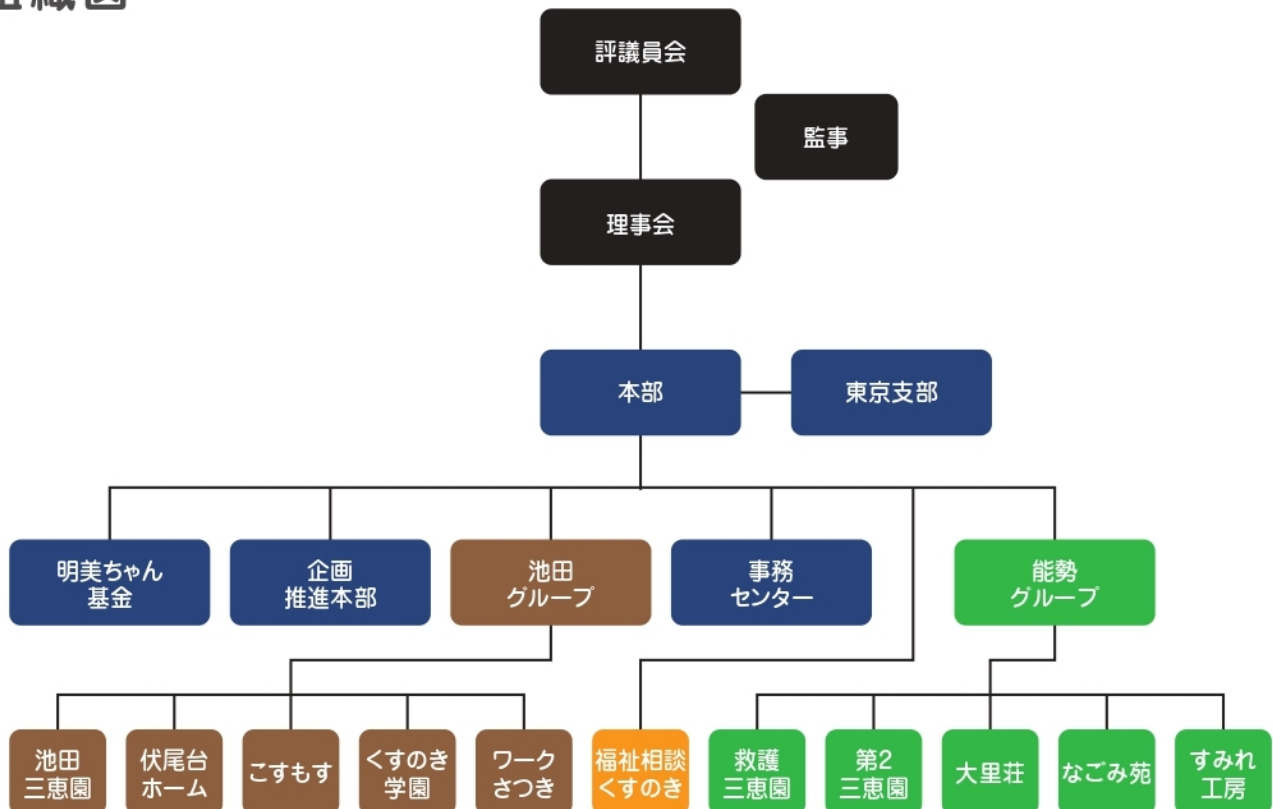
主な事業

産経新聞厚生文化事業団は、新聞というメディアの社会福祉法人としてボランティアなど社会の福祉活動を支援・振興する公益事業と、障害者を直接支援する社会福祉事業(第1種・第2種)を事業の2本柱としています。

公益事業	
事業名	実施時期
お笑いなにわ祭	5月
チャリティー絵画展	7月
はばたけアート公募展	9月
産経市民の社会福祉賞 チャリティーコンサート	11月
	年間
青少年育成基金事業	年間
あけみちゃん基金事業	年間

社会福祉事業			
事業種別	施設種別	施設名	所在地
第1種	救護施設	救護三恵園	能勢町
	知的障害者入所施設	第2三恵園 池田三恵園	能勢町 池田市
第2種	就労移行支援等事業所	池田市立くすのき学園 すみれ工房	池田市 能勢町
	就労継続支援事業所	ワークスペースさつき	池田市
	生活介護事業所	こすもす なごみ苑	池田市 能勢町
	共同生活援助等事業所 (グループホーム)	大里荘 伏尾台ホーム	能勢町 池田市
	相談支援事業所	福祉相談「くすのき」	池田市

組織図



公益事業

■ 産経市民の社会福祉賞

永年にわたり、地域で暮らしにくい環境にある人々や弱い立場の人々、青少年らを支援する活動を継続してきた人々やグループ、企業等を表彰します。1975年(昭和50年)に創設して以来、表彰した団体、個人は令和3年度までに377を数え、その活動内容は多岐に渡ります。



■ 産経はばたけアート公募展

障害者の創作活動を支援し、作品の紹介や商品化などを通して障害者の自立を支援します。2007年(平成19年)に創設して以来、毎年大賞1作品、優秀賞4作品を選び賞状や賞金を贈るとともに、商業施設で展示してお披露目しています。



■ 青少年育成事業

賛同者から届けられた寄付金を積み立てた「青少年育成基金」をもとに、①母子家庭を支援する啓発・助成②スポーツや芸術活動などを通じての青少年支援③青少年の就学・生活支援④災害時における青少年緊急生活支援⑤児童養護施設で暮らしながら大学・短大・専門学校への進学を決めた青少年への学資支援などを行なっています。



■ チャリティー事業

● お笑いなにわ祭

吉本興業と松竹芸能の芸人さんたちが漫才、落語、奇術、大道芸などで障害者、お年寄り、子供たちを楽しませます。

● チャリティーコンサート

帝国ホテル大阪との共催で同ホテルで催す「帝国ホテルの音楽會」(写真右上)、産経新聞開発との共催でホテルエルセラーン大阪で催す「名歌繚乱チャリティーコンサート」があります。それぞれ収益の一部が産経新聞厚生文化事業団に寄託され、社会福祉のために役立てられます。



● チャリティー絵画展

画廊の協力で有名画家の作品を展示・即売し、収益の一部が事業団に寄託されます。

■ あけみちゃん基金事業

先天性心臓病など小児難病に苦しむ国内外の子供たちを救う事業を展開しています。産経新聞社が提唱して設立された基金が平成29年(2017年)、産経新聞厚生文化事業団に移管されました。

海外支援事業ではミャンマーの心臓病の子供たちを救い、政府から感謝状をいただきました(写真右上)。令和4年度からは日本国内で心臓移植を待つ子供たちのために補助人工心臓の寄贈を開始しました。





施設紹介

■ 入所施設

三恵園

救護施設
■定員 / 70名

能勢町大里 222-4



第2三恵園

障害者支援施設
施設入所支援・生活介護・
短期入所(定員5名)
■定員 / 40名

能勢町大里 222-5



三恵園

障害者支援施設
施設入所支援・生活介護・
短期入所(定員10名)
■定員 / 30名

池田市中川原町 13-1



■ 通所施設

なごみ苑

生活介護事業所
■定員 / 40名

能勢町大里 1055



すみれ工房

就労継続支援B型事業所
就労移行支援事業所
■定員 / 36名

能勢町栗栖 166-1



こすもす

生活介護事業所
■定員 / 20名

池田市中川原町 13-1



ワークスペース さつき

就労継続支援B型事業所
■定員 / 20名

池田市鉢塚 1-2-1



池田市立 くすのき学園

生活介護事業所
就労継続支援B型事業所
就労移行支援事業所
■定員 / 45名
池田市五月丘 3-4-7



■ グループホーム 共同生活援助

大里荘

■定員 / 78名
能勢町大里 1055



伏尾台ホーム

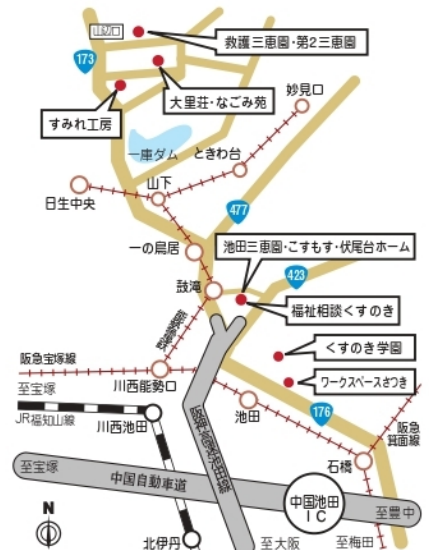
■定員 / 19名
池田市中川原町 13-1

■ 相談事業

福祉相談くすのき

総合相談・計画相談・地域移行・地域定着支援・
能勢町の基幹相談支援センター
池田市、豊能町、能勢町より委託を受け障害のある人の
相談に応じています。

池田市中川原町 13-1



支援の現場



心を込めて開店準備をしています。
(くすのき学園)



野菜加工の作業にあたる利用者さん。
商品の質が良く、納品先で評判となっている。
(すみれ工房)



おでかけのひと時
(伏尾台ホーム)



地域の方が交流できる場として「なごみサロン」
を開設しています。
(大里荘)



ウォーキング中にハイチーズ
(こすもす)



信楽の土を使用し一枚一枚、利用者が丁寧に
作っています。不均一ながらも重ねて収納でき、
軽くて丈夫なお皿です。
(池田三恵園)



みんなで作業頑張っています!
(ワークスペースさつき)



苑庭で育てたサツマイモの収穫。
満面の笑顔で「大きくなったよ〜!」。
(なごみ苑)



世界で1つだけのものが作れます!
(救護三恵園)



きれいな花が咲きますように。
(第2三恵園)

産経新聞と事業団

社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団のルーツは、太平洋戦争末期の昭和19年(1944年)1月に発足した「財団法人大阪新聞厚生事業団」です。設立代表者は前田久吉、昭和17年創刊の大阪新聞(平成14年休刊)を世に送り出した人物です。前田のことを少し述べましょう。前田は、大阪市西成区天下茶屋で朝日新聞や毎日新聞を扱う新聞販売店「有川新聞舗」の店主を務めていました。大正11年(1922年)に29歳の若さで大阪新聞のルーツ、週刊の「南大阪新聞」を創刊し、飛躍的に部数を伸ばしました。翌年には日刊夕刊紙「夕刊大阪新聞」に生まれ変わらせ、個人経営の組織を法人化して自社の輪転機で印刷する本格的な新聞発行に乗り出しました。この夕刊大阪新聞が母体となり、産経新聞のルーツである「日本工業新聞」と大阪新聞が誕生しました。前田はのちに産経新聞社、関西テレビ放送、大阪放送(ラジオ大阪)を創業したほか、財界の支援を得て昭和33年には東京タワーを完成させました。参院議員を務めた時期もあるまさに立志伝中の人でした(昭和61年5月死去)。

事業団に話を戻しますと、財団法人大阪新聞厚生事業団は戦中に発足しただけに、①国民保健の増進並びに救護②育児並びに少年救護③母子保育などを事業計画としていました。終戦を迎えたあと昭和23年1月に理事会を開き、それまでの戦時厚生の事業から戦後の混乱を解消するための①児童福祉に関する事業②出版文化に関する事業③都市勤労者の慰安、文化向上に関する事業④国民体位の向上などに改めました。そして、26年に定められた「社会福祉事業法」に基づき、事業団は28年9月、「社会福祉法人産業経済新聞・大阪新聞厚生事業団」となり、同時に大阪府堺市で救護施設「養気園」の経営を始めました。精神的障害のため独立して日常生活を送れない満18歳以上の女性らが入所し、職員がお世話をしました。

しかし、昭和7年築の施設は老朽化が激しく、事業団は42年、厚生省に建て替え申請を提出しました。大阪府豊能郡能勢町にある名刹、月峯寺の敷地が移転地と決まり、境内の山林約6600平方メートルを買収し新築することになりました。44年5月の理事会で、救護施設「三恵園」に名称変更する▽同じ敷地内に新たに開設する知的障害者施設

の名称も「三恵園」とする▽法人名を「サンケイ新聞・日本工業新聞・大阪新聞厚生文化事業団」とする、の3点が議決され、その年の7月に引越しが行われました。その後、はじめて男性障害者を受け入れた「第2三恵園」の開設(平成5年)、池田市から受託した「市立くすのき学園」の運営(平成15年)、能勢町の障害者施設「三恵園」の池田市への移転(平成18年)、同時に同じ敷地内に通所施設「こすもす」を開設。同じ年にグループホーム「伏尾台ホーム」(池田市)が開設され、能勢町のグループホームを統括する「大里荘」の事業も開始されました。その間に事業団の名称は「サンケイ新聞大阪新聞厚生文化事業団」(昭和52年)を経て、平成17年に現在の「産経新聞厚生文化事業団」となりました。

公益事業も昭和46年の第1回お笑いなにわ祭、50年の第1回産経市民の社会福祉賞、52年の第1回サンケイ福祉の船(平成18年終了)、平成10年の第1回帝国ホテルの音楽會、19年の第1回産経はばたけアート・フェスタ(現「産経はばたけアート公募展」)と第1回名歌繚乱チャリティーコンサートと広がっていきました。

一方、基金事業では平成13年、救護施設「三恵園」の建て替えを目的に「しあわせ基金」を設立し寄付金を募った結果、23年には本館完成にこぎつきました。平成7年の阪神淡路大震災で被災した子供たちを支援する「ランドセル基金」と、大学などへの進学を決めた施設の子供たちを支援する「明日への旅立ち基金」(平成19年開始)は、令和3年に「青少年育成基金」の名称で統合され、子供たちの健全育成を目的に幅広い活動を展開しています。また、産経新聞が昭和41年に心臓病の子供たちのために設立した「あけみちゃん基金」は平成29年に事業団に移管され、国内外の心臓病の子供たちを救うため新聞社と事業団が連携して活動しています。

現在、事業団は能勢町と池田市で9つの施設・事業所、2つのグループホーム群を運営しています。前田が蒔いた福祉の種は、長い年月を経て産経新聞厚生文化事業団という大木に成長したのです。ただ、その歴史は事業団だけのものではなく、産経新聞との二人三脚の歩みだったといえます。事業団にとって、産経新聞はこれからも最強のパートナーであり続けるでしょう。

事業団歴代理事長

	就任年月	理事長	兼任役職
昭和	1944年1月	前田久吉	大阪新聞社長
	1949年	全徳信治	大阪新聞社長
	1953年9月	前田久吉	産経新聞社長
	1967年5月	水野成夫	産経新聞社長
	1970年2月	鹿内信隆	産経新聞社長
	1976年3月	永田照海	産経新聞社大阪代表
	1983年10月	山路昭平	産経新聞社大阪代表
	1985年10月	原野栄一	産経新聞社大阪代表
	1987年6月	渡辺司郎	産経新聞社大阪代表
	1989年7月	小島宣夫	産経新聞社大阪代表
平成	1991年7月	澤 昭義	産経新聞社大阪代表
	1996年6月	山田慎二	産経新聞社大阪代表
	2000年6月	住田良能	産経新聞社大阪代表
	2002年6月	辻本幸夫	大阪新聞社長
	2006年10月	横田憲一郎	専任
	2013年10月	平田篤州	専任
令和	2015年10月	佐藤義博	専任
	2020年6月	鳥居洋介	産経新聞社取締役
	2021年6月	扇谷英典	産経新聞社大阪代表
	2022年6月	鈴木裕一	産経新聞社大阪代表



前田久吉



開設されところの養気園



事業団の歴史

西暦	和暦	できごと
1944	昭和19	財団法人大阪新聞厚生事業団設立。
1953	昭和28	社会福祉法人産業経済新聞大阪新聞厚生事業団と改称。 救護施設「養気園」を堺市に設立。
1968	昭和43	初の災害救援金「十勝沖地震義援金募集」を実施。
1969	昭和44	救護施設「養気園」を堺市から能勢町に移転し「三恵園」と改称。
1970	昭和45	サンケイ新聞日本工業新聞大阪新聞厚生文化事業団と改称。 能勢町に知的障害者入所施設「三恵園」(女性のみ)開設。
1971	昭和46	第1回お笑いなにわ祭を開催。
1975	昭和50	第1回産経市民の社会福祉賞を開催。
1977	昭和52	サンケイ新聞大阪新聞厚生文化事業団と改称。 公益事業「第1回サンケイ福祉の船」を開催。
1988	昭和63	東京支部を開設。産経新聞大阪新聞厚生文化事業団と改称。
1990	平成2	事業団初のグループホームを能勢町に開設。
1993	平成5	知的障害者入所施設「第2三恵園」(男女)を開設。
1995	平成7	阪神淡路大震災・震災復興支援事業を開始。 「ランドセル基金」スタート。
1998	平成10	「第1回帝国ホテルの音楽會」を開催。
2001	平成13	「しあわせ基金」スタート。
2003	平成15	知的障害者通所施設「池田市立くすのき学園」の運営を受託。
2004	平成16	心身障害者通所施設「豊能町立たんぼぼの家」の運営を受託。
2005	平成17	産経新聞厚生文化事業団と改称。
2006	平成18	知的障害者入所施設「三恵園」を能勢町から池田市に移転し、男女に変更。 同敷地に通所施設「こすもす」を開設。 池田市にグループホーム「伏尾台ホーム」を開設。 能勢町のグループホームを統括する「大里荘」が事業開始。 「サンケイ福祉の船」事業が30回で終了。
2007	平成19	「第1回産経はばたけアート・フェスタ」(現「産経はばたけアート公募展」)を開催。 「第1回名歌繚乱チャリティーコンサート」を開催。 能勢町に生活介護通所施設「なごみ苑」と就労継続B型通所施設「すみれ工房」を開設。 「明日への旅立ち基金」スタート。
2008	平成20	池田市から相談支援事業 福祉相談「くすのき」を受託。
2011	平成23	救護施設「三恵園」の建て替え工事で本館が完成。
2012	平成24	池田市に就労継続B型通所施設「ワークスペースさつき」を開設。
2016	平成28	「なごみ苑」が能勢町内で新築移転。
2017	平成29	「明美ちゃん基金」が産経新聞から事業団に移管。
2018	平成30	くすのき学園運営のうどん店「くすのき庵」が地震被害で閉店。
2019	平成31/令和1	「くすのき学園」が池田市内で新築移転。
2020	令和2	「すみれ工房」が能勢町内で新築移転。
2021	令和3	「くすのき庵」が池田市内で新店舗開設、再オープン。 「たんぼぼの家」の指定管理を終了。 「ランドセル基金」と「明日への旅立ち基金」を統合し「青少年育成基金」に改称。
2022	令和4	「明美ちゃん基金」の通称名を「あけみちゃん基金」に変更。

みなさまの寄付金を、さまざまな社会福祉に役立てます

◆ 振込 ◆

福祉一般（福祉・公益の事業活動全般への寄託）

郵便振替口座 00960-9-25723

問い合わせ ☎06(6633)9240

しあわせ基金（事業団が経営する障害者施設の設備整備費や施設利用者への福祉活動資金）

郵便振替口座 00980-6-57351

問い合わせ ☎06(6633)9240

青少年育成基金（ランドセル基金と明日への旅立ち基金を統合。青少年の健全育成のための幅広い活動資金）

三井住友銀行大阪本店営業部 普通口座3261239

問い合わせ ☎06(6633)9240

あけみちゃん基金（16歳以下の先天性心疾患の子供とその家族を支援する活動資金）

三菱UFJ銀行堂島支店 普通口座4535010

りそな銀行堂島支店 普通口座6202543

郵便振替口座 00920-4-333518

問い合わせ ☎06(6633)9207

◆ 現金書留 ◆

上記のどの寄付金か明記のうえ、次の住所へお願いします。

〒556-8660 大阪市浪速区湊町2-1-57 難波サンケイビル

社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団

代表番号 ☎06(6633)9240

当事業団への寄付には「税額控除」が適用されます

産経新聞厚生文化事業団は、平成30年1月4日、厚生労働大臣から、租税特別措置法施行令第26条の28の2第1項第3号に規定する要件を満たした法人であると認められました。寄付については申告の際に「税額控除」が適用されます。



法人本部のある難波サンケイビル



社会福祉法人
産経新聞厚生文化事業団

■ 法人本部

〒556-8660 大阪市浪速区湊町2-1-57 難波サンケイビル

TEL.06-6633-9240 FAX 06-6633-3910

HP <http://www.sankei-fukusi.or.jp>

E-mail info@sankei-fukusi.or.jp

■ 東京支部

〒100-8077 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル



事業団HPはこちらから！

